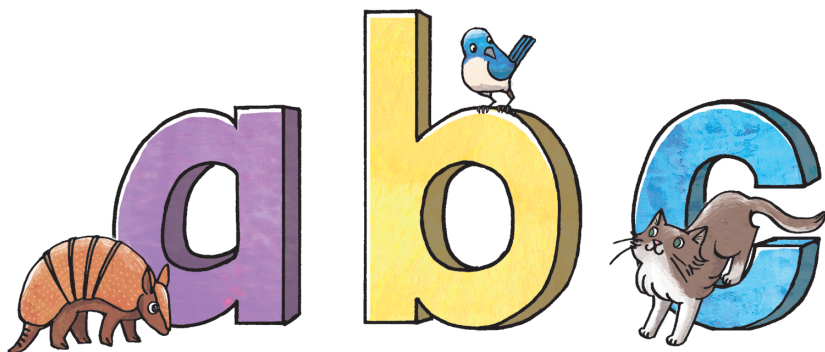




英語のつまずきは アルファベットから!?

小学校英語で行うリーディングの基礎指導とは



アレン玉井 光江 著

この冊子は、ARCLE ホームページ (<http://www.arcle.jp/>) の人気コラム、アレン玉井光江先生(青山学院大学教授)執筆の「英語のつまずきはアルファベットから! ?」(2014 年 8 月～11 月掲載:全 3 回) と、それに続く「小学校英語で行うリーディングの基礎指導とは」(2017 年 10 月～12 月掲載:全 5 回) をまとめたものです。小学校、中学校の先生方や児童英語教育に関わる方々に広く読んでいただき、ご活用いただければ幸いです。

ARCLE 事務局

目次



[アルファベット編]

第 1 回	アルファベットって何？	01
第 2 回	小文字って、結構大変	03
第 3 回	文字を練習しながら、実は音も！	05



[リーディングの基礎指導編]

第 1 回	音韻認識能力について	07
第 2 回	音韻認識能力を高める教室活動	09
第 3 回	フォニックスって何？	11
第 4 回	音素体操 ～音韻認識能力からフォニックスへ移る活動～	13
第 5 回	書き言語と音声言語	15



アルファベットって何？

1. 英語の読み書きは、アルファベットから

「いろはのいの字も知らない」というのは読み書きができない人のことを指しますが、英語でも同じこと、すべての読み書きの基礎はアルファベットの文字学習から始まります。簡単に見えて実は奥が深く、アルファベット学習は英語嫌いをつくらない最初の大きなポイントでもあります。

2. アルファベットって何？

それではアルファベットって何でしょう？

その原型は紀元前 1500 年ごろにできたといわれています。なんと 3500 年余りの歴史があるのです。

英語のアルファベットは現在 26 文字の大文字と小文字がありますが、最初は 23 個の大文字しかなく、小文字ができたのは 8 世紀だといわれています。現在でも、イタリア語は 21 文字、ギリシア語は 24 文字、フランス語、ドイツ語は 26 文字、スペイン語は 27 文字、ロシア語は 33 文字です。^{※1}

当然ですがアルファベットの読み方はそれぞれ違います。「アルファベットは英語だけ！」と思っている子どもたちには、異なるアルファベットがあると知るだけで驚きのようです。「どうしてイタリア語には 21 個しかアルファベットがないんだろうね？」と 5 年生に聞いたところ「きつと天使が忘れたんだよ」と答えた子がいました。

【世界のアルファベット】※2

イタリア語	英語、フランス語、ドイツ語	スペイン語	ギリシャ語	ロシア語																																																																																																																																												
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>E</td><td>F</td><td>G</td><td>H</td></tr><tr><td>I</td><td>L</td><td>M</td><td>N</td></tr><tr><td>O</td><td>P</td><td>Q</td><td>R</td></tr><tr><td>S</td><td>T</td><td>U</td><td>V</td></tr><tr><td>Z</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	A	B	C	D	E	F	G	H	I	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	Z				<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>E</td><td>F</td><td>G</td><td>H</td></tr><tr><td>I</td><td>J</td><td>K</td><td>L</td></tr><tr><td>M</td><td>N</td><td>O</td><td>P</td></tr><tr><td>Q</td><td>R</td><td>S</td><td>T</td></tr><tr><td>U</td><td>V</td><td>W</td><td>X</td></tr><tr><td>Y</td><td>Z</td><td></td><td></td></tr></table>	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z			<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>E</td><td>F</td><td>G</td><td>H</td></tr><tr><td>I</td><td>J</td><td>K</td><td>L</td></tr><tr><td>M</td><td>N</td><td>Ñ</td><td>O</td></tr><tr><td>P</td><td>Q</td><td>R</td><td>S</td></tr><tr><td>T</td><td>U</td><td>V</td><td>W</td></tr><tr><td>X</td><td>Y</td><td>Z</td><td></td></tr></table>	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	Ñ	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z		<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>Γ</td><td>Δ</td></tr><tr><td>E</td><td>Z</td><td>H</td><td>Θ</td></tr><tr><td>I</td><td>K</td><td>Λ</td><td>M</td></tr><tr><td>N</td><td>Ξ</td><td>O</td><td>Π</td></tr><tr><td>P</td><td>Σ</td><td>T</td><td>Υ</td></tr><tr><td>Φ</td><td>X</td><td>Ψ</td><td>Ω</td></tr></table>	A	B	Γ	Δ	E	Z	H	Θ	I	K	Λ	M	N	Ξ	O	Π	P	Σ	T	Υ	Φ	X	Ψ	Ω	<table><tr><td>А</td><td>Б</td><td>В</td><td>Г</td></tr><tr><td>Д</td><td>Е</td><td>Ё</td><td>Ж</td></tr><tr><td>З</td><td>И</td><td>Й</td><td>К</td></tr><tr><td>Л</td><td>М</td><td>Н</td><td>О</td></tr><tr><td>П</td><td>Р</td><td>С</td><td>Т</td></tr><tr><td>У</td><td>Ф</td><td>Х</td><td>Ц</td></tr><tr><td>Ч</td><td>Ш</td><td>Щ</td><td>Ъ</td></tr><tr><td>Ы</td><td>Ь</td><td>Э</td><td>Ю</td></tr><tr><td>Я</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	А	Б	В	Г	Д	Е	Ё	Ж	З	И	Й	К	Л	М	Н	О	П	Р	С	Т	У	Ф	Х	Ц	Ч	Ш	Щ	Ъ	Ы	Ь	Э	Ю	Я			
A	B	C	D																																																																																																																																													
E	F	G	H																																																																																																																																													
I	L	M	N																																																																																																																																													
O	P	Q	R																																																																																																																																													
S	T	U	V																																																																																																																																													
Z																																																																																																																																																
A	B	C	D																																																																																																																																													
E	F	G	H																																																																																																																																													
I	J	K	L																																																																																																																																													
M	N	O	P																																																																																																																																													
Q	R	S	T																																																																																																																																													
U	V	W	X																																																																																																																																													
Y	Z																																																																																																																																															
A	B	C	D																																																																																																																																													
E	F	G	H																																																																																																																																													
I	J	K	L																																																																																																																																													
M	N	Ñ	O																																																																																																																																													
P	Q	R	S																																																																																																																																													
T	U	V	W																																																																																																																																													
X	Y	Z																																																																																																																																														
A	B	Γ	Δ																																																																																																																																													
E	Z	H	Θ																																																																																																																																													
I	K	Λ	M																																																																																																																																													
N	Ξ	O	Π																																																																																																																																													
P	Σ	T	Υ																																																																																																																																													
Φ	X	Ψ	Ω																																																																																																																																													
А	Б	В	Г																																																																																																																																													
Д	Е	Ё	Ж																																																																																																																																													
З	И	Й	К																																																																																																																																													
Л	М	Н	О																																																																																																																																													
П	Р	С	Т																																																																																																																																													
У	Ф	Х	Ц																																																																																																																																													
Ч	Ш	Щ	Ъ																																																																																																																																													
Ы	Ь	Э	Ю																																																																																																																																													
Я																																																																																																																																																
21文字	26文字	27文字	24文字	33文字																																																																																																																																												

3. アルファベットとローマ字の違い

アルファベット学習では、文字の形(A)とその名前(「エイ」)を覚えます。少しローマ字学習と比較してみましょう。

ローマ字は日本語にローマ字を当てているので、アルファベット 26 文字中、19 文字しか出てきません（含まれないのは C、F、J、L、Q、V、X です）。ローマ字学習を通して、子どもはこれら 19 文字の字形を学びます。でも、日本語の音を表すローマ字では A は「エイ」ではなく「ア」、B は後ろに母音をつけて ba / bi / bu / be / bo 「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」となります。日本語には B だけで表現される音はありません。

詳しくは第2回のコラムでお話ししますが、アルファベット学習の大切なところは、この文字の名前に含まれている英語の音にしっかり慣れ、発音できるようになることです。

※1 羽鳥博愛 監修（2010）『新・学研の英語ずかん 1 巻 ABC あそび』学研教育出版

※2 アレン玉井 光江（2010）『小学校英語の教育法—理論と実践』大修館書店

富盛 伸夫監修（2005）『世界の文字と言葉入門 10 フランス・イタリアの文字と言葉』小峰書店



小文字って、結構大変

大文字に比べて、小文字を獲得するのに苦労している子どもたちをよく目にします。その理由には以下のようなものがあります。

1. 字形的に目立つ特徴が少ない

大文字が左右対称で特徴をつかみやすい形のものが多いのに比べ、小文字は小文字といわれるだけあり、字が小さくなるため字形的に目立つところ（これを専門用語で弁別特徴 distinctive features と呼びます）が少なくなり、認識が難しくなります。だから子どもたちは b-d、p-q を混同したり、j や i の点を忘れたりするのです。

2. 小文字の高さがさまざまである

大文字ではすべて 4 線の上 3 線に書けばよいのに対して、小文字では文字によって以下のように高さが異なります。

①上に長いもの（4 線の上 3 線に書くもの）

b d f h k l

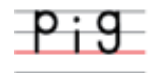
②下に突き出るもの（4 線の下 3 線に書くもの）

g j p q y

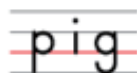
③上にも下にも出ないもの（4 線の 2 線と 3 線の間に書くもの）

a c e i m n o r s t u v w x z

小文字の字形がわかっているにもかかわらず 4 線の上に書けるかどうかはまた別次元のことで、子どもたちは平気で小文字の高さを気にしないで以下のように書きます。



よくある間違い



正しいもの

2020 年度からは公立小学校で英語が教科となりますが、できれば小文字の習得にはゆっくり、そしてしっかり時間をとって教えてあげたいですね。私はだいたい小文字の獲得には大文字の 3 倍の時間がかかると思って、指導しています。

英語を母語とする子どもたちを対象とした研究では、小学校の低学年のリーディング能力を左右するのは、アルファベットの知識と音韻認識能力であると報告されています。私が行った日本人児童を対象とした数々の調査結果からも、そのことが判明しました。また単語のスペルが理解できる力には、大文字より小文字の認識能力が強く関係していることがわかりました。確かに通常、単語は小文字で書かれているわけですから、納得がいく結果です。

しかし、小文字の理解度は大文字の理解度に大きく影響されていました。つまり大文字がよく理解できていた児童は小文字もたくさん理解していたことになります。小文字は先ほど述べた点から習得に時間がかかるため、丁寧に指導することが大事ですが、もちろん大文字も大切です。

子どもたちがある程度のスピードで正確にアルファベットが認識でき、そして書けるようになるまで、時間をかけて確実に指導することがとても大切です。



アルファベット編 第3回

文字を練習しながら、 実は音も！

アルファベット学習では、文字（「B」）とその名前（「ビー」）を学習します。子どもたちは例えば「DOG」を見ると、「ディー、オー、ジー」と文字の名前を言うことはできます。でもアルファベットの名前読みをしているだけでは、「[dɒg] ドッグ」と読むことはできません。単語や文を読むためにはアルファベットの文字の名前ではなく、音を学習しなければなりません。英語を母語にする子どもたちの中でアルファベットの文字をよく知っている子どもは、文字と音（b は /b/ という音）との関係に気づくようになっていくといわれています。

つまりアルファベット学習では、文字の形とその呼び方（名前）を学びながら、その呼び方の中にある文字の音を知ることが、とても大切なのです。大変だと思われるかもしれませんが、実は多くのアルファベット文字の名前には、その文字の音が含まれているのです。私は英語の学習時間が少ない子どもたちになんとかそれに気づき、理解して欲しいと思い、「アルファベット音素体操」というものを考案しました。音素体操とは次のページにあるようにアルファベットの名前に共通する音に注目して、アルファベットの文字をグループ分けし、それらを動作で表すようにしたものです。

① /ɪ:/ 組 (イー組)	B=/b/・/ɪ:/ P=/p/・/ɪ:/	C=/s/・/ɪ:/ T=/t/・/ɪ:/	D=/d/・/ɪ:/ V=/v/・/ɪ:/	E=/ɪ:/ Z=/z/・/ɪ:/	G=/dʒ/・/ɪ:/
② /e/ 組 (エ組)	F=/f/・/e/	L=/l/・/e/	M=/m/・/e/	N=/n/・/e/	S=/s/・/e/
③ /eɪ/ 組 (エイ組)	A=/a/・/eɪ/	H=/h/・/eɪ/	J=/dʒ/・/eɪ/	K=/k/・/eɪ/	
④ /u:/ 組 (ウー組)	Q=/k/・/j/・/u:/	U=/j/・/u:/	W=/d/・/ʌ/・/b/・/l/・/j/・/u:/		
⑤ /aɪ/ 組 (アイ組)	I=/aɪ/	Y=/w/・/aɪ/			
⑥その他	O=/ou/	R=/r/			

※アレン玉井（2010）P190-192 より

詳しくはアレン玉井（2010）のP190-192*、もしくは本書のP13-14をご覧ください。音素体操はアルファベットの大文字学習が終わるくらいの時期に導入します。この活動を通して子どもたちは少しずつ音と文字との関係に気づき、そしてそれを体得していきます。この力が育つと、文字と音との関係を教えるフォニックス指導にスムーズに入っていくことができます。

これまでのコラムで、導入期においてアルファベットの学習がいかに大切であるかを述べてきました。英語を好きだけでなく「使える」学習者になるためには、音声言語を育てたのちにリタラシー（読み書き）能力を身につけることが不可欠です。その第一歩がアルファベットの学習です。時間をかけて丁寧に指導をしていきましょう。

※ アレン玉井 光江（2010）『小学校英語の教育法—理論と実践』大修館書店



音韻認識能力について

アルファベット編では、3回にわたりアルファベットの指導の大切さについて書きました。リーディングの基礎指導編では、アルファベットの文字認識が終わった段階から中学校でのリーディング指導が始まる前に、小学校で何ができるのかについて数回にわたり書きます。まず1回目は、リーディング指導に不可欠である音韻認識能力について説明したいと思います。

1. 音韻（音素）認識能力って何？

言語はまずは音声により表現され、それからずいぶん遅れて一部の言語集団で書き言語が発達しました。現在でも世界中の言語の全てに書き言語があるわけではありません。音を文字で表すとき問題になるのは、どのような単位で音を区切り、文字に対応させるかということです。例えば「ほ・ん」という単語を2つの音で区切ると、このように仮名で書くことができますが、「ほん」と音節で区切ると「本」と1つの漢字で表すことになります。さらに音の最も小さな単位である音素に対応させると、「hon」と3つの文字になります。話し言葉をどのような音単位で分けて、文字を対応させるのか、言語によって異なりますが（窪園&本間、2002）、それを理解することが文字言語を習得するうえで大切な力になります。

つまり書き言語を身につけるには、話されている言葉の音構造を知る力が必要になりますが、この力のことを音韻認識能力といいます。例えば、日本語の基本的な音の単位はモーラ*ですが、仮名を学ぶ前に「まり」は2つの音でできていて、最初の音は「ま」、最後の音は「り」、なので

しりとりは「り」から始まる単語を探す。そして最初の「ま」を「く」に変えると「くり」になるというような言葉の音構造を知っている必要があります。phonological awareness（音韻認識能力）というのは言葉の意味ではなく、その音の構造について理解できる力です。もしも子どもが「ほり」という言葉の意味を知らないとしても、この言葉が「まり」と同じように2つの音でできており、そして最初の音を「ま」に変えると「まり」になると理解できる力が必要です。英語は、1つの文字に基本的には1つの音素が対応しています。したがって音素レベルでの同様の力「音素認識能力」が必要となります。

2. 音韻（音素）認識とリーディングの関係

音韻（音素）認識能力とリーディング能力の発達について、多くの研究から音韻（音素）認識能力は、単語認識力、またはリーディング能力の発達を確実に予測すると報告されています（まとめとして Snow, Burns, & Griffin, 1998 など）。つまり、単語や文を読み始めるには、アルファベットの文字学習と同様に、音韻（音素）認識能力を高めることが不可欠ということです。

次回は、この大切な音韻（音素）認識能力を育てるための教室活動を紹介したいと思います。

※モーラ：音韻論上の単位。1子音音素と1短母音音素をあわせたものと等しい長さの音素結合。拍。（広辞苑）

参考文献

窪菌晴夫，本間猛（2002）『音節とモーラ』研究社出版

Snow, C. E., Burns, M. S. & Griffin, P. (1998). Preventing Reading Difficulties in Young Children, National Academy of Sciences-National Research Council



音韻認識能力を高める 教室活動

前は少し難しかったかもしれませんが、音韻（音素）認識能力について説明しました。今回は、この大切な力を培うために私が行っている活動のうち、主要なものを紹介したいと思います。文字を見せることもたまにありますが、基本、音だけで行う活動です。

1. 消しゴムゲーム

外国語活動でもよく行われている「keyword」ゲームにやり方は似ています。児童はペアになり、聞こえてくる単語の最初の音が目標としている音ではないと、消しゴムを取るというものです。例えば、目標の音を /b/ とし、指導者は「bear, book, baseball, baby」などと言います。そして「sky」など /b/ で始まらない単語を言うと、児童は消しゴムを取ります。

2. High-Ten ゲーム

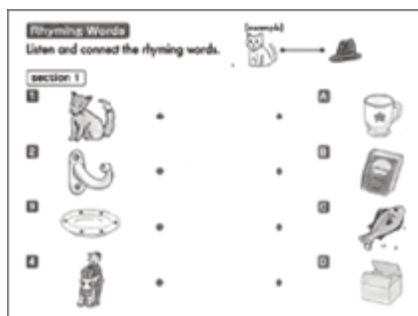
音韻認識能力を高めるため、私はライム認識を高める活動を積極的に導入しています。この活動では目標にするライム（rime: 単語の母音、もしくは母音とそれに続く子音（群））を決めて、そうでないライムが出てくると、ペアで両手を上で合わせる、いわゆる High-Ten を行います。例えば、目標のライムを -at (/at) と決め、指導者は「cat, mat, hat, rat, fat」などと言います。そして「king」など異なるライムを言うと、児童はペアで High-Ten をします。どのペアが一番早く手を合わせられるかを競います。

3. Sound Tennis

これは 2018 年度から使用されている公立小学校第 6 学年用の教材の中でも「Sounds & Letters」の主要活動として紹介されています。「消しゴムゲーム」同様、単語の初頭音（単語の最初の子音）に気をつけることで音素認識能力を高めようとする活動です。クラスを 2 つに分けて、目標とする音を決め、その音から始まる単語を時間内に言い合うというゲームです。私は児童が活動に慣れるまでは、「私対児童全員」にし、慣れてきたら「男子対女子」、または「1～3 班対 4～6 班」など、クラスを 2 分割します。例えば、目標の音を /m/ と決めて、「それではそれぞれ 3 秒以内に /m/ から始まる単語を言いましょう。3 秒以内で言えなければ負けになります。わかったらその場で大きな声で言ってください。ただし同じ言葉は言えません。先生から始めますね。 Monkey 3, 2, 1 …（と自分が単語を言うときすぐ数字をカウントします）」といった具合です。

4. ワークシート

音韻（音素）認識能力を高めるためには、下記のようなワークシートも有効です。（アレン玉井、2003, 2017）



参考文献

アレン玉井光江 (2003). Little Readers 1, 2. 小学館集英社プロダクション

アレン玉井光江 (2017). Little Readers 4. 小学館集英社プロダクション



フォニックスって何？

2020 年度施行の新学習指導要領において、3、4 年生対象の外国語活動ではアルファベットの文字の“名称の読み方”を、そして5、6 年生対象の外国語科では“文字が持っている音”を指導することになりました(小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック、p.17-18)。

後者の文字とその音の関係を知ることが alphabetic principle と呼び、それを教える教授法のことをフォニックスと呼びます。例えばこの教授法では、H を、アルファベット読みでエイチと教えますが、音としては /h/、「ハ」と似た音で寒いときに手に息を吹きかける感じの音で、H/h という文字と、その文字の音 /h/ を意識的に教えていきます。フォニックスにはさまざまな種類があり、その代表的なものがシンセティック・フォニックス (synthetic phonics) と呼ばれ、一つ一つの文字とそれに対応する音を教え、その知識で単語が音読できるように指導していきます。この指導により、P・p は /p/ (プ)、I・i は /i/ (イ)、G・g は /g/ (グ) と学習し、それをあわせて pig /pig/ と単語が音読できるようになります。

英語圏の研究ではフォニックスが効果的なのは読み指導の初期段階であり、指導はその場限りのものではなく、体系的であることが大切であると報告されています (Ehri, 2006)。日本でフォニックスを導入する場合は、色々考慮しなければいけないことがあります、中でも下記の2点には特に気をつける必要があると思います。

- (1) フォニックスを導入する前に、学習者が十分なアルファベットの知識(大文字・小文字)を持っていること。つまり文字とその名前に関する知識を持っていることが前提条件になります。
- (2) フォニックスを指導する前に、学習者が話されている言葉の音構造を理解する力である、音韻認識・音素認識能力を十分に持っていることを確認します(リーディングの基礎指導編第1回を参照)。これもフォニックス指導の前提条件です。

前述したようにフォニックスは体系的に、また継続的に実施されなくてはなりません。それを可能にするカリキュラムを開発し、小学校ではどこまでを教えるのかを十分吟味し、中学校と連携して取り組んでいく必要があります。

文部科学省が作成した『Hi, Friends! Plus』デジタル教材には、色の名前を使い、初頭音（単語の最初の音）とその文字をあわせる活動があります。例えば、赤色のアイコンを押すと red の最初の音 r の文字が表示されるようになっていきます。また、「仲間の言葉を集めよう」という活動ではアルファベット 26 文字があり、それぞれの文字をクリックするとその音で始まる単語が、また 2 回クリックするとスペルも画面に出てきます。

2018 年度より配布されている高学年対象の教材『We Can!』には、『Hi, Friends! Plus』にも収録されているジングルという教材があります。これは例えば /bɪ:/, /b/, /beər/（ビー、ブ、ベア）と音が聞こえ、映像では文字 B/b とクマの絵が出てきます。アルファベットの文字の名称読み、音読み、そしてその音が最初に含まれている単語が、A～Z の 26 文字、それぞれ用意されています。6 年生になると継続して初頭音を使って文字とそれに対応する音（例：公園 (park) とピザ (pizza) の絵と p）を復習し、その文字を書くことで文字と音との関係をより明示的に学習していきます。

このような活動を行っていかなければ、子どもたちは CAT を /sɪ:/ /ei/ /tɪ:/ と名前読みはできても、/kæt/ と読むことができません。cat 全体を音とあわせて覚えていく whole word method 方式※で多くの単語を覚えていくには限界があります。フォニックスは英語のリーディングの初期段階でしっかり時間をかけて実施する重要な教授法です。

今回は、音韻認識能力からフォニックスへ移る活動として、音素体操を紹介します。

※一つ一つの文字と音との関係から単語を読んだり、書いたりするのではなく、つづり全体を覚えていく方式

参考文献

Ehri, L. (2006). Alphabets instruction helps students learn to read. In Joshi, R. M & Aaron, P. G. (Eds.). Handbook of Orthography and Literacy (pp649-677). New York, NY: Routledge.

文部科学省 . (2017)『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1387503_1

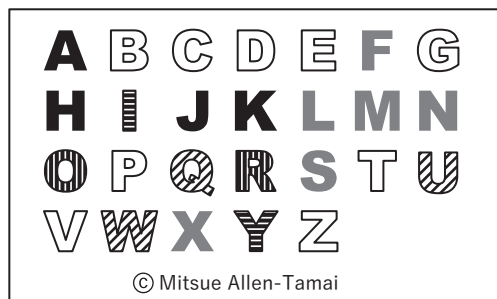


リーディングの基礎指導編 第4回

音素体操

～音韻認識能力からフォニックスへ移る活動～

今回紹介するのは、音韻認識能力を高め、文字とそれに対応する音について学習するフォニックスの最初の段階で行うと効果的な活動です。下図の色分けアルファベットのチャートを見てください。どのような理由で分類されているのかわかりますか？



英語のアルファベットは字形だけでなく名前にもその特徴があります。アルファベット 26 文字の名称はほとんどが 1 音節です。また多くの文字の名前は 1 子音と 1 母音の 2 音素でできています。それを考えると次のように 6 つのグループに分けることができます。

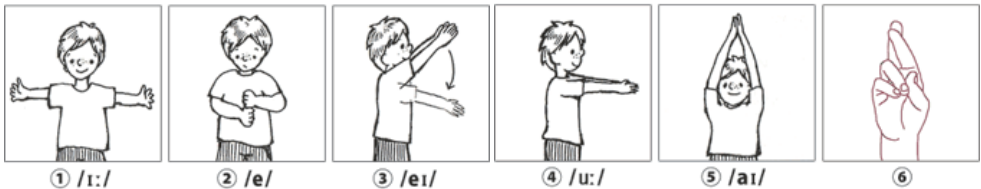
- (1) **B** /i:/ グループ 名前の中に /i:/ が含まれている文字 — B, C, D, E, G, P, T, V, Z
- (2) **F** /e/ グループ 名前の中に /e/ が含まれている文字 — F, L, M, N, S, X
- (3) **A** /ei/ グループ 名前の中に /ei/ が含まれている文字 — A, H, J, K
- (4) **Q** /u:/ グループ 名前の中に /u:/ が含まれている文字 — Q, U, W
- (5) **I** /ai/ グループ 名前の中に /ai/ が含まれている文字 — I, Y
- (6) **O** ゼログループ 共通の音が含まれていない文字 — O, R

私はこれらのグループの共通の音に次のページにあるような動作をつけ、あとは 1 音素を 1 つの手拍子で表すようにしました。そうすると児童は体を動かしながら音素という慣れない音の単位を感じるようになります。

ます（インターネット上に参考動画があります）。

- ①共通の長母音 /i:/ は両手を広げます。
- ②共通の母音 /e/ は上下のこぶしを体の前で合わせます。
- ③共通の二重母音 /ei/ は両手を合わせ上から下へ動かします。
- ④共通の長母音 /u:/ は両手を合わせて前に出します。
- ⑤共通の長母音 /ai/ は両手を合わせて上にあげます。
- ⑥ゼログループの O は両手で大きく O と丸をつくります。R はアメリカ手話の R を模して両手で右下図のような形をつくります。

（アレン玉井、2010. p.190-192）



英語圏の子どもたちは自然にアルファベットの名前からアルファベットの音に気づくといわれています。この活動を通して児童は、アルファベットの名前に含まれている文字の音に気づき、それを意識するようになります。

この活動が十分に定着したあと、①/i:/ グループから /i:/ を、また②/e/ グループからは /e/ を取って発音するように指示を出します。そうすると、(b, c, d, g, p, t, v, z) と (f, l, m, n, s, x) の文字に対する音を学習することになります。③/ei/ グループでは J と K についてはこの方法ができますが、H には適応しません。同様に、Q, R, W, Y、また C/k/ と G/g/ は音と文字の関係を教えないければいけません。しかし、この方法を使うと一文字で表す子音の3分の2について名前と音を別のものとして教える必要がなくなり、音素認識も深まりますので、私はフォニックスの重要な活動として位置づけ、実践しています。

参考文献

アレン玉井 光江（2010）『小学校英語の教育法―理論と実践』大修館書店



書き言語と音声言語

今までこのコラムでは初期のリタラシー指導に必要なことについてシリーズで書いてきました。今回はこのコラムの最後としてリタラシー指導の際に重要な音声言語の発達について考えてみたいと思います。

1. 母語でのリタラシーと音声言語の関係

母語獲得の過程を見ると、「書き言葉」を身につけるためには「話し言葉」が十分に発達していなければいけないことがわかります。音声言語がリタラシーの土台になると考える研究者は多く（Snow, Burns, & Griffin, 1998、Roskos, Tabors, & Lenhart, 2009）、就学前に獲得する音声言語が後のリタラシーおよび学習の成功に大きく影響すると考えています。

2. 第二言語におけるリタラシーと音声言語

子どもに限らず、第二言語学習者がリタラシーを獲得するときの大きな壁は、「書き言葉」の土台となる「話し言葉」が十分に発達していないことです。私たちは英語の音声言語が十分に発達していない状態で英語の読み書きに挑戦しています。しかし、私は外国語教育においても音声言語を育てることがリタラシー指導に必要であると思っています。例えば、フォニックス指導で得た力で、書かれている単語を音声化できても、単語（の音）を知っていなければ理解できません。特に初期段階においては、音声で英語を理解している力が読解力に大きな影響を及ぼすことが予想されます。

それでは、これらの音声言語はどのような状況で獲得できるのでしょうか？ 私たちはこのような音声言語力を仲間や周りの大人たちとの自然なやり取りの中で、意味のある文脈を通して身につけてきたと考えられます。子どもたちが興味を抱くのは意味（meaning）の世界であり、形式（form）の世界ではありません。言語習得という観点からすると、教室は不自然な環境ですが、子どもたちがなるべく自然に、意味のある文脈の中で英語に触れることができるように工夫することが重要です。わかりやすくするために1文レベルや単語レベルでの言葉ばかりを提供していると、そこには生きた文脈は存在せず、本当の意味での言語習得は望めないでしょう。また簡単なダイアローグのやり取りでは、子どもはどのような文脈のもとで言語が使用されているのか想像するのが難しく、必然的な言葉のやり取りを学習することも難しいでしょう。

以上のような理由から、私はストーリーテリングや絵本を利用して、子どもたちが想像力を働かせながらなるべく自然な音声言語に接することができるように指導しています。ストーリー性を持った伝統的な歌やチャンツ、また絵本の読み聞かせやストーリーテリングなどを積極的に取り入れられることをお勧めします。

参考文献

Snow, C. E., Burns, M. S. & Griffin, P. (1998). Preventing Reading Difficulties in Young Children, National Academy of Sciences-National Research Council.

Roskos, K. A., Tabors, P. T., & Lenhart, L. A. (2009) Oral Language and Early Literacy in Preschool: Talking, Reading, and Writing. International Reading Association.

ARCLE Web サイトのご案内

本冊子のコラム他、ARCLE での研究活動を発信しています。

<http://www.arcle.jp/>

英語教育 アークル



ベネッセ教育総合研究所グローバル教育研究室 Web サイトのご案内

英語教育に関する調査研究の結果等をご覧いただけます。

<http://berd.benesse.jp/global/>

ベネッセ グローバル教育研究室



※この冊子は、ARCLE ホームページ（<http://www.arcle.jp/>）で掲載の、「英語のつまずきはアルファベットから！？」（2014 年 8 月～11 月：全 3 回）と、それに続く「小学校英語で行うリーディングの基礎指導とは」（2017 年 10 月～12 月：全 5 回）を再編集したものです。



「英語のつまずきはアルファベットから!?!～小学校英語で行うリーディングの基礎指導とは～」

アレン玉井 光江 著

発行日：2019 年 3 月 20 日

編集・発行：Action Research Center for Language Education (ARCLE/ アークル)

デザイン：仲尾 淳子 表紙イラスト：パンチハル

〒206-0033 東京都多摩市落合 1-34 ベネッセ教育総合研究所内

* ARCLE はベネッセ教育総合研究所が運営する英語教育研究会です

ベネッセ教育総合研究所

ARCC18